

祝 開校記念日 1952年5月27日開校式

上五島高等学校の歴史始まる

歳	西 曆 (元 号)	月・日	項 目
1	1952年 (昭和27年)	2月 7日	設置許可 (←地元住民の熱意が県を動かす 全日制普通科3学級)
		4月 1日	創立 (仮校舎は魚目中学校内)
		5月 27日	開校式
2	1953年 (昭和28年)	4月 1日	本校舎へ移転 (まだまだ工事中)
4	1955年 (昭和30年)	1月 28日	落成式
		4月 1日	家政科1学級設置 (普通科は3→2学級)
11	1962年 (昭和37年)	4月 1日	電気科1学級設置
13	1964年 (昭和39年)	4月 1日	普通科2学級増設 (2→4学級)
14	1965年 (昭和40年)	3月 23日	電気科実験室・寄宿舎完成
		4月 1日	奈良尾分校・若松分校開校
17	1968年 (昭和43年)	1月 17日	格技場完成
20	1971年 (昭和46年)	10月 15日	創立20周年記念式典挙行
		12月 8日	電気科電力実習室完成
21	1972年 (昭和47年)	1月 26日	音楽室完成
		4月 1日	家政科1学級増設 (1→2学級)
22	1973年 (昭和48年)	3月 31日	奈良尾・若松分校廃止 (中五島高等学校新設)
23	1974年 (昭和49年)	8月 7日	鉄筋校舎第1期工事完了 (4階建)
24	1975年 (昭和50年)	3月 31日	鉄筋校舎第2期工事完了
		4月 1日	普通科1学級増設 (4→5学級)
25	1976年 (昭和51年)	4月 1日	普通科1学級増設 (5→6学級)
27	1978年 (昭和53年)	3月 31日	電気実習棟第1期工事完了 (鉄筋3階建)
29	1980年 (昭和55年)	3月 26日	電気実習棟第2期工事完了 (鉄筋3階建)
30	1981年 (昭和56年)	8月 20日	体育館建築工事完了
		10月 13日	体育部部室完成
		11月 1日	創立30周年記念式典挙行
31	1982年 (昭和57年)	2月 8日	寄宿舎改築工事完了
36	1987年 (昭和62年)	2月 5日	第2体育館大改修工事完了
37	1988年 (昭和63年)	3月 24日	格技場全面改修工事完了
38	1989年 (平成 元年)	3月 31日	セミナーハウス工事完了
40	1991年 (平成 3年)	4月 1日	情報技術科1学級設置 (電気科1学級減)
			家政科1学級減 (2→1学級)
		11月 3日	創立40周年記念式典挙行
41	1992年 (平成 4年)	4月 1日	普通科1学級減 (6→5学級)
43	1994年 (平成 6年)	4月 1日	文部省指定武道指導推進校 (～平成8年度)
45	1996年 (平成 8年)	3月 25日	芸術棟「輝洋館」新築工事完了
		4月 1日	家政科募集停止
47	1998年 (平成10年)	2月 27日	家政科閉科式
		3月 26日	図書室改修工事完了
48	1999年 (平成11年)	4月 1日	文部省教育研究開発指定「総合的な学習の時間」
50	2001年 (平成13年)	10月 27日	創立50周年記念式典挙行
52	2003年 (平成15年)	3月 25日	波濤館新築工事完了
		4月 1日	普通科1学級減 (5→4学級)
54	2005年 (平成17年)	3月	グラウンド改修工事完了
55	2006年 (平成18年)	3月	管理棟大規模改修完了
		4月	電気情報科設置 (工業科1学級減)
58	2009年 (平成21年)	1月 17日	大学入試センター試験離島会場実施
59	2010年 (平成22年)	4月	男女制服改定
60	2011年 (平成23年)	11月 6日	創立60周年記念式典挙行
62	2013年 (平成25年)	4月	普通科1学級減 (4→3学級)

学校草創期(上高の原点)に学び、今を振り返ろう！

- * 上高は現在68年目を迎えています。
- * 地域の方々の願いが叶って開校されました。今後も地域の期待に応えるべく頑張らしましょう。
- * 先輩方の熱い思いが残る母校を愛し、母校の建物・設備を大切にしましょう。

「創立の頃のことども」(友永茂男先生：昭和28～31年度在職)

昭和27年4月、魚目中学校の一隅の仮校舎で呱呱の声(注：うぶごえ)をあげた上五島高校は、私の着任した時は現在の校地に木造2階建の第2棟のみ完成し、第1棟が完成間近の状態でした。次第に建築が進み、つづいて第3棟も建てられました。当時は普通科3学級の小規模校でしたので、授業に差し支えない施設が整えられてゆきました。

ところが、どうにもならないのが運動場でした。地元の方々の御好意により、約五千坪の用地が用意されてはいましたが、整地の費用を県がみてくれず、田圃のまま放置され、白鷺が餌をついばみにきたり、近所のお百姓さんの牛が放牧されたりといった状態でした。昭和29年4月、第3回生が入学してきた段階で、「県がやってくれないなら自分達の手で運動場をつくろう。」と生徒会が立ち上がったのです。「自分達の手で」といっても、全生徒数450名に過ぎず、作業道具といえば鍬くわにスコップ、土を運ぶざる箕み(注：竹製のカゴ)と箕み(注：竹製のチリトリ)くらいのもので、作業は遅延として進みませんでした。しかし、全校生徒のすさまじい程の執念によって半年後、遂に完成に漕ぎつけました。

「自分らで造った学校」という意識が愛校心を奮いたたせ、逞しい建学の精神に結びついたことは言うを俟ちません。「落書のない、便所のきれいな学校」という校是こうぜもいつとはなしに育てられ、今にその伝統がうけつがれていると聞き、嬉しい限りです。

「草創の精神が生きていた」(田中正明先生：昭和31～35年度在職)

グラウンドの下に美田があったことを、今、いく人のひとが知っているのであろうか。あのころ(昭31～35年)、教師にも生徒にも、美田を教育のために提供した地元の方々の心が生きていたように思う。まだまだ、開拓途上であった。

矢倉岳の中腹から奇岩をひきずりおろして、教師、生徒が力を合わせて庭園を造った。先進校に追いつかなくては、という気迫があった。質実剛健の気風が定着しつつあった。鍛え抜かれた末に表した体育祭の集団演技は、今でも感激をもって思い出される。見事であった。鍛錬に耐える生徒が多かった。私は、女子バレー部顧問であった。年一回の高校総体のため、休業は正月三が日だけ。よくぞ、ついてきてくれたものと思う。成果はあらわれた。優勝候補の鶴鳴を破って準優勝することができた。授業においても、不真面目な態度に出会った記憶がない。真摯な態度であったから、思いきって、むつかしいものをぶっつけた。やがて長崎の教壇に立ったが、長崎も上五島も授業の質を変える必要はなかった。

ちょうどTVが普及し始めるころで、佐田の山の取組を見ることができるようになり、一喜一憂していた。佐田の山の活躍が、どれほど在校生に大きな力を与えてくれたことか。上高一の無口な男、佐田の山は、今、NHKの解説者。その明晰な解説には定評がある。佐田の山に上高の秘められていた可能性の開花をみる。

上高には、まだまだ秘められた可能性がある。半都会化して質実な気風がなくなるとき、その可能性は、花開かぬままになる。三十周年を前に、もう一度、草創期の活力を。

(ともに、昭和54年発行の生徒会誌『柏葉』創刊号より)